

2024年

秋

どうそ 満

議員活動報告



発行責任者 道祖 満

飯塚市鯉田2525-44

TEL 25-3280

つくります!
newしいつがライフ

飯塚市議会議員

どうそ

道祖

満

奥山にもみぢふみわけ

鳴く鹿の声聞くとときぞ秋はかなしき

(よみ人知らず)

皆様、お元気ですか。

今年の夏は暑かったですね。

秋のお彼岸が来て、朝晩が涼しくなり、過ごしやすくなりましたが、10月になって雨が降り、気温が20度以下の日もあり、少し風邪気味になりました。

このまま秋が深まっていくのを期待しながらこの議員活動報告の原稿を書いています。

夏前から米不足が報じられていましたが、暑さのせいか、妻の実家の米の出来は例年に比べ少ない様ですし、10月になって食品関係の値段が上がって年末に向けて厳しい状況が続くようですが、今年はコロナ感染症後少し地域も元気が出てきている様子で、9月29日の日曜日に、鯉田地区の体育祭が6年ぶりに開催され、久しぶりの地区の人たちが集まる行事でしたが、多くの人たちが参加して賑わっていました。

飯塚市議会では、令和6年9月定例会市議会が、令和6年9月3日から9月26日まで開催されました。

9月定例会市議会の一般質問は、昨年引き続き「児童クラブの暑さ対策について」と「市の奨学金制度の運用について」市の考えを質しました。



(鯉田地区体育祭に参加しました。)

令和6年9月定例市議会が開催されました。

令和6年9月定例市議会が、9月3日から9月26日まで開催されました。

今回の定例市議会で、審議された議案の主なものは次の通りです。

◎「令和6年度飯塚市一般会計補正予算（第3号）」

（原油価格・物価高騰対策事業等による経費を補正するもの。保育所等給食支援事業費 3,047万7千円・農業物価高騰対策支援事業費 4,059万8千円・市民1人当たり5千円の生活応援クーポン券を配布する発行事業費 6億9,235万7千円・貨物運送事業物価高騰対策支援事業費 4,803万7千円等 8億4,151万4千円を補正し補正後 834億8,603万4千円とするもの。）

◎「令和6年度飯塚市工業用地造成事業特別会計補正予算（第1号）」

（令和6年6月に取得した筑穂地域工業団地造成用地の一部を、市内企業へ売却するため一般会計からの繰入金を1億2,221万5千円減額補正するもの。）

◎「土地の処分（筑穂地域工業団地造成用地の一部）」

（1億2,221万5千円で、6万3,029.61㎡の土地を福岡市のDIST株式会社に売却するもの。）

執行部提出の18議案・令和5年度各会計歳入歳出認定14件・報告事項4件・人事案件4件・請願1件・議員提出議案2件の審議が行われました。

経済建設委員会報告

土地の処分（筑穂地域工業団地造成用地の一部）

筑穂地域工業団地造成用地については、取得する土地面積は、25万1,522.27㎡・約7万6,200坪、不動産鑑定価格は、3億5,950万円で、鉦害賠償額1億6,500万円を、差引き契約額を1億9,450万円で取得していますが、南東側の6万3,029.61㎡・約1万9100坪の土地を、福岡市のDIST株式会社に1億2,221万5千円で売却します。

DIST株式会社は、プレキャスト製品の研究、開発等を行う企業で、筑穂元吉地内で製造業を行っている株式会社ドーケンの出資企業で、株式会社ドーケンは、事業集約、拡大を伴う用地に活用する計画で、事業の為には直線距離で200m.以上の長さの土地が必要とされており今回の売却となりました。

敷地内の雨水については、福岡県と協議のうえ敷地内には調整池を設置し県営河川の馬敷川に放流することになります。

新設工場の稼働予定は、令和10年10月で、60名の従業員が現在雇用されており、その中の27名が飯塚市民で、新工場の稼働に合わせ新たに19人を雇用する予定です。

「児童クラブ」に関連して一般質問

昨年の9月定例市議会で、「児童クラブの遊戯室に冷房設備の設置」を要望する一般質問を行いました。

今年は、昨年より暑い日が続きましたが、この暑さは10月まで続く長期予報が出ていました。

昨年の一般質問では、「放課後児童クラブ」の実施場所での高温注意情報に対する対応について市の考えを質しましたが、その際の、答弁では、「全児童クラブに暑さ指数測定器を設置しアラームが鳴る様になっている、概ね気温が30度以上の場合は、遊戯室の利用を控えるようにしている。」とありましたが、今年は毎日30度を超えている状況でした。

各実施場所での気温の管理状況はどうなっているのか、昨年からの改善点と、今後の暑さ対策の取組みについて市の考えを質しました。

質問 児童クラブでは、気温の記録を毎日していますか。

答弁 委託先に確認したが、気温等の記録はしていない。

質問 教育委員会は、気温の状況を把握しているのですか。

答弁 本年度は7月に3か所の現地確認を行い、施設確認と気温、暑さ対策について支援員に聞き取りを行った。

質問 教育委員会としては、19か所の施設についての現状把握は出来ていないと理解致しますが、それでよろしいですね。

19か所の施設で高温の際に利用を控える遊戯室のある施設は何施設ありますか。

答弁 遊戯室に空調設備が無く、気温が高い際に利用を控えている施設は11か所です。

質問 利用を控えている施設では、どのような運用を行っているのですか。

答弁 小学校と協議を行い、空調設備のあるランチルームなどを利用し、運動系の集団活動を実施している。

質問 昨年の一般質問の際、校舎の利用については調査を行い、今年度から反映できる形で対応していきたいと答弁されていましたが、どう対応されましたか。

答弁 今年度は、夏休み期間中に児童クラブが学校の余裕教室を利用することについて、7月に教育委員会から各小学校へ協力依頼の通知を出し、関係者の連携会議等において、夏休み期間中の使用について調査を行い、その結果、遊戯室に空調設備が無い児童クラブ11か所のうち、今年度は6か所が空調のある学校施設を利用している。

質問 残る5か所の児童クラブでの対応はどうなっていますか。

答弁 遊戯室の使用はしないで、児童クラブのエアコンの効く部屋で活動を実施している。

質問 遊戯室に空調設備が無く学校施設を利用している児童クラブを2か所視察して支援員さんに現状確認を致しましたが、全ての児童が学校施設を利用出来ない現状がありました、また、学校施設への移動には引率が必要とのことでした。教育委員会はこのような現状についてどの様に考えているのですか。

答弁 学校施設の利用の際には移動が伴い、移動の際には児童の安全に配慮する必要が生じると考えている。

質問 現実的には、遊戯室にエアコンの無い11か所の児童クラブでは、多くの時間集会室のような小さい部屋で多くの子ども達を集め、じっと待機させている様な状況になっているのではないですか。

答弁 質問議員の言う様に、学校施設の利用を推進しているが、利用が出来ていない5か所についてはエアコンのある部屋でできる活動を行っている状況であると認識している。

質問 今後の児童クラブの利用児童数の動向についてはどの様に考えていますか。

答弁 令和3年度以降は毎年増加傾向にあり、立岩・片島・穂波東・庄内の4か所は4年連続で増加している。

質問 今後も暑い日が続くと思います、今後の放課後児童クラブの施設のあり方について、どの様に考え、どの様に取組んでいく考えですか。

答弁 本市では児童クラブの待機児童が生じないように取組んでおり、この方針を継続していく。子どもたちの成長において遊びや運動は重要と認識している。小学校と施設利用の調整をしていきたいと考えている。

以上のような質疑を行いました、児童クラブの暑さ対策についての積極的な施策については答弁が得られませんでした。



(高い気温の際には使用が出来ない立岩児童クラブの立岩児童センター・遊戯室)

国では、「熱中症対策実行計画」が、令和5年5月30日に閣議決定されています。

また、「学校における熱中症対策ガイドラインの作成の手引き（追補版）」が、令和6年4月に、環境省・文部科学省から出ていますが、この中に閣議決定された「熱中症対策実行計画」に基づいて、管理者がいる場等における熱中症対策について、具体的な施

策として「学校現場における熱中症対策」に従い、公立小中学校等の施設について、地方公共団体における計画等を踏まえて、教室や体育館等へエアコン設置を支援するとあります。

この内容を踏まえて、児童クラブでの各室内の気温状況の把握を行い、計画性を持って児童クラブの暑さ対策に取り組むように要望致しました

飯塚市児童クラブの遊戯室にエアコン整備状況

有り 幸袋・飯塚・飯塚鎮西・穂波東・穎田

無し 立岩・飯塚東・鯉田・片島・上穂波・大分・二瀬・菰田・椋本・若菜・庄内
遊戯室無し 伊岐須・高田・内野

「飯塚市奨学資金貸付制度」について一般質問

昨年12月定例会市議会の一般質問で、「飯塚市奨学資金貸付制度」の運用について見直しを要望致しましたが、その際の答弁では、関係機関と協議し検討するとのことでしたので、その後のどうなったのか、市の考えを質しました。

質問 この制度の運用には、奨学資金貸付基金の持続可能な枠の中で、貸付人員数を決定しているが、貸付を希望する数は増えているとのことでしたが、そのような答弁だったと理解してよろしいですか。

答弁 その通り。

質問 「奨学資金基金の原資を確保しつつ、関係機関と協議いたしながら、今後の人数拡大や貸付金額を検討して行くことが課題と認識している。」と答弁されていますが、原資の確保についての取り組みはどうなりましたか。関係機関との協議の結果はどうなりましたか。

答弁 令和6年度貸付開始の大学区分等の募集人員は、18人から20人に増員したが、今後の基金状況の推移及び国の就学支援新制度を確認しながら、人数拡大や貸付金額を検討している。

質問 この制度の見直しについて検討をお願いしていましたが、その際の答弁では、制度の在り方については、検討をしていくとありましたが、その後どの様に検討されていますか。

答弁 制度の見直しについては、1点目は、「貸付資格の市在住期間1年を、飯塚市をふるさととして認識する年齢期間を考え、高校進学では5年・大学では8年としてはどうか。」であったが、在住期間を延長すると等しく教育を受ける機会への影響などについて慎重に判断する必要がある。

2点目は、「奨学資金返還金の免除について、現在の市内に住めば全額免除を、市内に住み市外の企業に勤めれば半額免除、市内に住み市内の企業に勤めれば全額免除とし市内企業への人材確保に寄与させる。」であったが、全国で33の自治体

が市内企業に就職した場合に奨学金返還支援を行っていることが確認できたが、詳細内容の精査はできていないため、さらに詳しく調査・研究を行って行く必要がある。

質問 貸付資格の市在住期間 1 年の設定の根拠の説明をお願い致します。

答弁 本市の貸付が 1 年とした根拠は把握していないが、他市の状況が概ね 1 年、または、在任期間無しが多かった。

質問 根拠がないのであれば、市民の税金を使う制度ですから、どうあるべきか考えて頂きたい。

調査の結果、全国で 33 の自治体で、市内企業に就職した場合の奨学金返還支援を行っているとのことでしたが、現在の制度は、教育委員会の所管ですが、市の定住政策なり産業振興なりの立場から考えていくべきではないかと思いますが、その後、検討はされているのでしょうか。

答弁 所管の在り方は、他の自治体の状況を調査しているが、自治体によって様々な状況であるので、どの部署が所管することが効果的で効率的であるか、引続き関係部署と実現に向けて協議していきたい。

質問 今年の 8 月 1 日付けの日本経済新聞では、「奨学金肩代わり 2 千社突破。5 月前年同月比 2 倍、若手社員向けに大学などの奨学金を肩代わりする奨学金返還制度を活用する企業が急増している。」とありました。

「飯塚市奨学資金貸付制度」を改めて、市内企業の人材確保と、市の定住政策・産業振興施策としての前向きに検討して頂きたいと思っておりますが、市長なり副市長の考えをお尋ねいたします。

答弁 (藤江副市長) 中小企業等の一番の課題は人材確保であると認識している。奨学金制度の在り方についての提案に対しては、今後検討していきたいと考えている。

ふくおか県央環境広域施設組合議会報告

新しく 2 市 1 町のごみを処理する施設を建設するため、事業者の公募を令和 6 年 7 月 29 日から開始し、11 月 27 日に提案書類の受付を締め切り、選定委員会で令和 7 年 1 月までに事業者を選定する予定ですが、この新しく建設されるごみ処理施設について、2 市 1 町の議員を対象に、令和 6 年 9 月 14 日（土）飯塚市穂波交流センターで説明会が開催されました。（説明の主な内容は次の通りです。）

◎嘉麻市のごみ処理施設（嘉麻クリーンセンター）は、昭和 62 年 4 月より稼働し 37 年が経過（現在稼働を休止中）・桂川町のごみ処理施設（桂苑）は、平成 6 年 4 月より稼働し 30 年が経過・飯塚市のごみ処理施設（飯塚市クリーンセンター）は、平成 10 年 4 月より稼働し 26 年が経過している。（ごみ処理施設は、一般的に施設の更新や延

- 命かを実施する時期の目安は20年から25年であり、各施設の稼働率は55%から77%で、将来の人口減少を見据え今後の効率的な施設運営の検討を進める必要があった。）
- ◎新しく建設を予定しているごみ処理施設については、約6年後の令和12年4月からの稼働を考えている。（嘉麻クリーンセンター43年経過後・桂苑36年経過後・飯塚市クリーンセンター32年経過後）
 - ◎新しく建設するごみ処理施設の予定地は、現在桂川町で稼働しているごみ処理施設（桂苑）の敷地とその隣接地を選定している。（新施設の運営時における収集運搬等の効率性や経済性を重視し、2市1町それぞれの人口重心地を含む半径7kmの圏内での選定を行った。）
 - ◎事業方式については、公共で資金調達・施設を所有し、設計・建設と運営等は民間で行う、公設民営方式（DBO方式）で事業推進を図っていく。
（先例事例で採用実績が多く、他自治体との比較検討が行いやすい。建設から運営まで受託するため、事業者は長期的視点で効率化や合理化を図ることができる。国の交付金と地方債の活用により資金調達に係るコスト抑制が図れる。運営委託費の長期間の平準化が見込める。）
 - ◎新施設の整備方針については、安全性及び安定性の高い施設・効率的で経済的な施設・循環型社会及び脱炭素社会に資する施設・計画的な維持管理による長寿命化施設・災害時にも安定した稼働ができる強靱な施設・環境教育及び啓発に活用できる施設・景観に配慮し、地域に親しみを持たれる施設としている。
 - ◎新施設の規模については、令和4年3月に策定した「一般廃棄物処理基本計画」の目標値を基に「プラスチックに係る資源循環の促進に関する法律」に基づく対応を勘案し、施設区分「エネルギー回収型廃棄物処理施設（可燃ごみ処理施設）」1日の焼却能力110t炉2基の220t（災害時発生廃棄物の処理にも対応可能とする。）・施設区分「マテリアルリサイクル推進施設」1日の処理能力25t（不燃ごみ・粗大ごみ・空き缶・空きびん・ペットボトル・プラスチック資源の処理）
 - ◎新施設の設計・建設に係る価格については、DBO方式による提案価格の上限額は、各プラントメーカーのヒアリングでの見積価格を参考に、445億100万円（税込み）を見込んでいる。（可燃ごみ焼却施設とマテリアルリサイクル施設の合計額）
 - ◎新施設の運営費については、20年間の管理運営費と資源化費の合計で299億2,600万円を見込んでいる。（既存の施設を今後20年間稼働した場合の費用は422億8,500万円必要となるので、新施設の運用で123億5,900万円の抑制効果が見込まれる。）
 - ◎関連するその他の事業費については、各費用は税込みで、建設予定地の造成工事費を39億3,400万円・施工管理費を17億2,600万円・地域振興策経費を30億2,800万円を考えているが、用地取得費は交渉中で確定していない、既存施設の解体費については、積算に至っていない。

◎2市1町の費用負担については、国の循環型社会形成推進交付充当後の新施設建設と運営費の概算額は税込みで713億8500万円で、人口割により飯塚市72.29%・嘉麻市20.27%・桂川町7.44%（令和5年9月末）と設定し、施設建設費負担額は、飯塚市297億8,800万円・嘉麻市83億5,100万円・桂川町30億6,600万円、20年間の運営費負担額は、218億1,700万円・嘉麻市61億1,800万円・桂川町22億4,500万円となるが、飯塚市の場合、新施設建設負担額297億8,800万円に対し一般廃棄物処理事業債・過疎債を利用（金利1.4%・償還期間30年・据置期間5年・償還方法元利均等方式）と、地方債元金と利子の合計額に交付税措置率を乗じて試算後の実質負担額は税込みで、221億6,200万円となる。

西鉄バス路線「飯塚オートレース場」まで路線延長

飯塚オートレース場に行く際には、JR新飯塚駅前のバス停から飯塚オートレース場への直行バスがありますが、鯉田地区から飯塚オートレース場へ行くには、一度JR新飯塚駅前に行き、直行バスに乗り換えるよりも、愛宕団地集会所まで運行している西鉄の路線バスを、飯塚オートレース場まで路線延長した方が利用しやすいとの声を、市を通じて西鉄バスに伝えていましたが、令和6年10月1日から実施のダイヤ改正で、路線バスの起終点が「愛宕団地集会所」から「飯塚オートレース場」に変更になりました。

市の所有する絵画等の美術品について

市の所有する絵画等の美術品の管理については、これまで何度も整理して市民に公開する事を求めてきましたが、整理が終わり今年の3月から市のホームページで公開されていることをご存知でしたか。（わたしは、知りませんでした。）

市に「広報いづか」等で、市の所有する美術品一覧についてホームページで閲覧できることを周知したのか確認すると、周知はしていないとのことでした。

美術品の内訳について確認すると、総数は1077点あり、絵画が919点・書画が77点・版画や屏風などのその他が81点となっていると説明がありました。

資料によると、伊藤若冲の掛軸（鯉）・柳原白蓮の書（短歌）・東山魁夷の絵画（緑映）等著名な作家の作品や飯塚ゆかりの作家の作品が所有されています。

今後は、企画展等の開催を通じて市民の皆様へ鑑賞の機会を設け、活用していく考えであると説明がありました。

市のホームページを開き、「観光・文化・スポーツ」の「文化」をクリックすれば、「飯塚市所有美術品一覧」の項目があり、収蔵施設、種別、作者、作品名、規格について見ることが出来るようになりました。（残念なことに、画像はありませんが、イイヅカコミュニティセンター内の文化課文化振興係では美術品の写真を閲覧できます。）